

校長室からのお知らせ

8月25日号 NO.11

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

やってみよう

いきなりですが、口に2画（線を2本）足してできる漢字をいくつか思い浮かべることができますか。思いつきやすい漢字として、「田」がありますが、「田」から、「由」や「申」や「甲」などが連想できると思います。「口」の下に二画足す「兄」や「只」、「口」の横に二画足す「加」や「叶」など、一般的に使われる常用漢字では27個程度あります。「司」や「叩」や「号」などは難易度が高いと思っており、思いついた方は「漢字博士」を名乗っていただいても大丈夫かと思っています。「本当？」って疑いたくなる「冂（コン）」「冂（ショウ）」「冂（ダン）」「冂（シ）」「冂（ソウ）」などを知っておられる方は、「漢字の神さま」だと尊敬いたします。

さて、このような問題を見かけると、すぐに紙と鉛筆を用意して思いついた漢字を書き始めるような子どもに育ってほしいと願っています。

反対に、なってほしくはないと思うのが、少し考えてみて、漢字が思い浮かばなくなった時点で「こんな問題、面白くないわ」と問題のせいにして、途中で投げ出してしまう私のようなタイプです。

「好きこそものの上手なれ」ということわざがありますが、好きなことには、自然と熱心に打ち込むことができ、工夫を凝らしたり、積極的に学んだりするため、上達も早くなるというのは事実だと思っています。様々なことに興味を持ち、「とりあえず、やってみよう」と挑戦することができると、人生が豊かになると考えています。

2学期は、運動会や音楽会などの行事がたくさんありますが、勉強もしっかりしなければいけない学期でもあります。「勉強が好き」ってなれば言うことは何もありませんが、なかなか難しいと思います。

しかしながら、「クラスのみんなで受ける授業は好き」は、可能かと思います。一人でも多くの子供が、山直北小学校の授業は面白いと感じ「やってみよう」の姿が常に見ることができるように、教職員一同も研修を重ねていきますので、ご家庭でもお子さまの「やってみよう」を引き出していただくようお願いいたします。

校長室からのお知らせ

9月1日号 NO.12

岸和田市立山直北小学校
校長 尾野 武志

スマートフォン

夏休みに、お子さまの成長に関する貴重なお話をお聞きすることができましたので、お伝えしたいと思います。

「毎日、1時間以上スマートフォンを見ている子どもには、①記憶をつかさどる大脳皮質が薄くなることによる学力低下が危惧される②脳の報酬系と呼ばれる回路が変化することによる依存症になりやすい③LINEでのお金の送付等の新しいタイプの犯罪に巻き込まれる危険性が高い等、リスクにさらされる可能性が高くなる。スマートフォンは百害あって一利なしであり、スマートフォンは子どもをダメにすると考えている。」という内容のお話でした。

実は、同じ内容のお話を6月にも聞いており、かなり信ぴょう性があると思って紹介させていただいています。ただ、電話会社の方からクレームをいただくことは望んでいませんので、お話の続きもお読みください。

「きちんとした使用目的があってスマートフォンを使っていたら上記3点のリスクは極端に下がる。目的もなくダラダラとスマホを手放さないでいることが危険だ。」ということになるそうです。

私自身は、スマートフォンは便利で現代では必要不可欠な電子機器だと思っていますので、目的があってスマートフォンを使うことに対して否定する気持ちはまったくありません。しかしながら、家族で食事や会話をしている際に、長男や次男がスマートフォンを触ることが許せない「変なところに固執する偏屈者」と家内と長男と次男から陰口を叩かれていたのも事実です。

「変なところに固執する偏屈者」と言われ10年近くが経ちますが、晩ごはんを食べに来た独立した長男や次男がスマートフォンを気にしているのを見ると、未だにイライラして「帰れ」って言ってしまっています。学力低下や依存症や犯罪被害者を心配しているわけではありませんが、尾野家のマナーやモラルやルールを守られないことを残念に感じているのだと思います。

保護者のみなさまには、お子さまをスマートフォンのリスクから守り、それぞれのご家庭のマナーやモラルやルールを守れるお子さまを育てていただくようにご協力とご尽力をお願いしたいと思います。